

# 中学1年3組 社会科学習指導案

指導者 原 義 昭

追求テーマを設定し、違う地域の事例と自分の調べた地域を比較し、自分に返す学習活動を取り入れたことは、思考力・判断力・表現力を高め合うことに有効であったか。

## 1 単元名 中国・四国地方を歴史から探ってみよう

### 2 授業の構想

(1) 中学1年生の地理的分野の学習は、世界と日本の地域構成について学習することから始まり、写真や映像など具体的な資料を準備し、世界や日本の地域構成や生活の舞台としての地球の姿を大観させ、世界の国々や地名、地図などに関心を高める活動を行ってきた。また、地図の読図や作図、景観写真の読み取りなどの技能の習得に力を入れてきた。また、社会事象に対する関心・意欲の高い生徒が多く、身近な出来事に関心をもち、疑問に感じたことを意欲的に追求することができるように思われる。授業後に振り返りを記録しているが、多くの生徒が自分の気づきや疑問を取り上げている。しかし、学習課題に対して深く考え、判断した結果を表現する活動は、まだ十分に定着しておらず、事象を取り上げ、生徒一人一人が主体的に学習できるようさまざまな授業形態を工夫していきたいと考えている。

本単元の学習にあたり、以下のような事前調査を行った。主な結果は、次の通りである。(抜粋)

設問1 「あなたが、中国・四国地方の県で訪れたことのある県はどこがありますか。」

- ・鳥取県(35人) ・山口県(22人) ・広島県(35人) ・岡山県(33人)
- ・香川県(17人) ・愛媛県(10人) ・徳島県(7人) ・高知県(6人)

設問2 「中国・四国地方といえば、あなたにはどのようなイメージがありますか。」

- ・自分の住む地方・地味・影が薄い・あまりよく知られていない・田舎・関東に比べて田舎
- ・事件が少ない・神様が集まる(出雲)・山陰と山陽、山陽は雨が少なく、四国は温かい
- ・人口が少ない・自然豊か・山や島が多い・川が多い・どの県も海に面している
- ・国際的・交通が不便・伝統工芸品が多い・中国地方は田舎の名産品、四国はうどん

設問3 「中国・四国地方について、あなたが知っていることをできるだけたくさん書いてください。

- ・山陰、山陽、瀬戸内などに分かれる ・山陽新幹線・山陰本線・一畑電車・国道2号、9号線・瀬戸大橋
- ・政令指定都市(広島、岡山)・世界遺産が3つくらい・大山・鳥取砂丘・境港・ゲゲゲの鬼太郎・名探偵コナン・二十世紀梨・羽合 ・広島東洋カープ・マツダスタジアム・原爆ドーム・サンフレッチェ広島・厳島神社・鹿・路面電車・カキ・お好み焼き・もみじまんじゅう ・後醍醐天皇・後鳥羽上皇・若槻礼次郎・中海・宍道湖
- ・しじみ・出雲大社・松江城・雪舟庭園・石見銀山・水族館・原子力発電・ブルサール計画 ・瀬戸内海・鞆の浦・壇ノ浦・桃・桃太郎 ・チボリ公園がなくなった・秋吉台・サファリパーク・錦帯橋・ふぐ・なつみかん
- ・山口からたくさんの総理大臣・木戸孝允・瀬戸内工業地域・さぬきうどん・水不足・愛媛みかん・坊ちゃんスタジアム・阿波踊り・坂本龍馬は高知出身・四万十川・長宗我部氏・毛利氏

事前調査より、中国・四国地方という区分の中で、生徒が訪れたことがある先は、中国地方に集中し、四国地方にはやや距離感があるように思われる。イメージとしては、田舎で地味であるにとらえる生徒が多数いた。また、生徒のこの地方に対する知識(情報)は、多方面にわたっていることがわかる。

(2) 本単元は、新学習指導要領における地理的分野の内容項目「日本の諸地域」を7地方(九州、中国・四国、近畿、中部、関東、東北、北海道)に区分し、その中で中国・四国地方を7つに示された考察の方法のうち「歴史的背景を中核とした考察」の仕方を基にして、とらえさせるものである。中国・四国地方の特色ある地理的事象や事柄を他の事象と関連づけて追求する活動を通して、地域的特色をとらえさせることをねらいとしている。日本の諸地域(7地方)の学習は、7つの考察の仕方でも学習を展開していくことになっている。そこで、中国・四国地方では「歴史的背景を中核とした考察」の仕方を選択し、以下に示すことをふまえて学習を構想していく。

授業を構想するにあたって、「歴史的背景を中核として考察するとはどのようなことか」について、いろいろな観点から検討していった。ここでの学習は、中国・四国地方の歴史的遺産は、どのようなも

のが、どこにあるのか、というようなことを調べてみる学習ではない。地域の産業、文化の歴史的背景や開発の歴史に関する特色ある事柄を中核として、それを国内外の他地域との結び付きや自然環境などと関連付け、地域の地理的事象の形成や特色に歴史的背景がかかわっていることからねらいに迫る学習をめざさなければならない。つまり、歴史的背景から考察するということは、過去の状況が現在に生かされて人々の生活が成り立っているということを追求することであり、過去からの変容がどのようになされたのかということをも面的な見方・考え方を身につけていくことであると考え。

そして、追求の手立てとなる過去からの変容を見るためにはどのようにすればよいかと考えたときに、具体的事象として3地域を取り上げ、過去の同時期での決断が、現在のそれぞれの地域に大きな影響を及ぼしていることに視点をあてていくことが有効であるという考えに至った。また、事象については、次のような点を考慮しながら選択していくことが大切であり、授業構想の段階から検討していった。

- ① 具体的事象が山陰・瀬戸内・南四国の3地域からそれぞれ選択できるところ
- ② 過去のある時期の決断によって、変わっている（変わらない）ところ、決断の背景からいろいろな歴史遺産が見え、とらえやすいところ
- ③ 生徒に関心をもって、過去と現在の様子がわかりやすいところ
- ④ ここでの学習が、他の地域の学習にも生かされるところ

このようなことから、中国・四国地方を歴史的な背景を中核として考察することは、この地方の特色を追求していくために適切で重要な考察の視点である。また、ここで示した学習方法が、他の地域で様々な事象を学習する時に生かされ、地理的な見方・考え方が身についていくと考える。

これまでの学習で行ってきた地図の読図や作図、景観写真の読み取りなどの技能の習得や地理的な見方や考え方を、課題の設定や資料の活用を適切に行うことによる考察、課題のまとめなどの活動を問題解決的な学習過程を組むことにより、さらに深化させ高めていくことができると考える。

また、本単元の学習は、地域を地誌的に取り上げて我が国の国土に対する認識を深めることができ、小中の一貫性の観点からみても、中学校社会科地理的分野の学習を特色づけるものになると言える。(3)以上のことから本単元では、歴史的な分野の学習も生かし、中国・四国地方の特色について、歴史的な背景とのかかわりから追求する。しかし、歴史的な背景には時代差があるため、共通性は見だしにくい。そこで、戦後の日本が大きく変容する高度経済成長期の選択・決断という視点から共通している事象を探り、3つを選択した。具体的には、①石見銀山、②瀬戸内工業地域のコンビナート、③四万十川の清流についてである。そして、学習過程の段階を大きく、Ⅰ地域の特色を示す地理的事象を見いだす段階、Ⅱ中核とした事柄を他の事象と関連づけて追求する段階、Ⅲ追求の過程や結果を表現する段階の3段階でとらえ、ねらいに迫ろうと考える。

Ⅰの段階では、「中国・四国地方は、どのようなところだろう」という問いかけから入り、この地方に対するイメージマップを描かせる。事前調査からも明らかになった様々な事象を取り上げ、分類していく中で歴史的な内容を拾い上げ、歴史と結びついた地域のとらえ方に気づかせたい。

さらに、過去（高度経済成長期）と現在を比較させ、「なぜこの地域は変わった（変わらない）のだろうか」ということから地域の変容に注目させる。その際に、その時期に大きな決断・選択があったことを示し、そこから追求していくテーマを設定していく。ここでは、

- ① 石見銀山の保存 ～歴史や伝統、遺産をどのように生かそうとしたのか～
- ② 塩田と瀬戸内工業地域コンビナート ～伝統工業の遺産が近代工業にどのように生かされたのか～
- ③ 四万十川の清流 ～川との共存をどのように守ってきたか～

を、大きな柱となるテーマの視点として習得すべき内容の中核に据えて、追求段階でテーマがより具体的になっていくように学習を進めていきたい。

Ⅱの段階で具体化された追求テーマについてグループごとに調査活動を行い、課題解決ができるよう促していく。調査活動については資料の収集や活用する力が必要になってくるので、3つの事象について十分な資料を収集できる手がかりを準備し、見通しをもった活動ができるようにする。追求テーマについてかかわりをもたせながら、まとめていくことができるようにしたい。自分とは違った見方・考え

方をもつ他者とのかかわり合いによって、これまでの見方・考え方をゆさぶる活動場面を設定していく。

最終的（Ⅲの段階）には、大きくは「中国・四国地方は、どのようなところだろう」という問いかけに立ち戻るが、「高度経済成長期の決断、ここからわかることは何か」ということを今までの学習を通して、追求テーマに沿ってまとめ、自分の考えを深めることができるようにしたいと考える。その際に、思考・判断したことを、根拠をもって自分の言葉でわかりやすく伝えることが大切になってくる。この活動を取り入れることで、もう一度整理し伝え合ったり、自分の心で伝え合う、共通の課題をもっている生徒のかかわりが生かされてくると考える。

### 3 活動展開計画（全7時間 本時7/7）

次	主な学習活動	時	具体的な学習活動
1	中国・四国地方は、どのようなところなのだろうか調べてみよう	1	・中国・四国地方は、どのような地域なのかを全体的に概観する。 (県名、地形、気候、歴史的背景など)
2	地域の変化に気づき、グループで追求するテーマを設定しよう (なぜこの地域は変わったのだろうか)	2	・中国・四国地方の地理的事象の形成や特色に、歴史的背景が大きく関わっていることに気づき、追求テーマを把握する。 ・3つの地域の過去（高度経済成長期）と現在を比較し、変容をつかむ。
3	課題を解決しよう ＜予想されるテーマ＞ ・石見銀山は、どうして世界遺産になったのだろうか ・塩田がなぜコンビナートに変わったのだろうか ・四万十川はなぜ清流のままなのか (「高度経済成長期の決断により、どのように変容したのだろうか」)	3 4 5	◎ 課題解決のためのグループ別調査活動を展開する。 ＜追求の視点＞○歴史や伝統をどのように生かしているか（保存） ○伝統工業と近代工業がどのように発展してきたか ○地域開発は、どのように進み、どのような問題が生まれてきたか（開発と環境保護） ＜予想される調査活動について＞ ・歴史的な遺産をかかえ、そこに暮らす人々の様々な工夫について調べる。 ・瀬戸内の塩田が古くから発達した要因を考え、社会の変化に対応して大きく変貌している様子について調べる。 ・南四国を例に、環境問題に対する関心を高め、今後の中国・四国地方のあり方について、開発と環境保全の両面から調べる。
4	自分の考えを深めよう 「高度経済成長期の選択！ここからわかることは何か」	6 ⑦	・追求テーマについて、グループごとに発表する。 ・今までの中国・四国地方の学習を通して、中国・四国地方の特色を追求テーマに沿って自分なりにまとめる。

### 4 評価計画

次	時	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	社会科における思考力・判断力・表現力
1	1	調べることにより情報を得ようとしている。	歴史的背景から考えようとしている。		地方の全体像を理解している。	地方の全体像を把握するとき、どのような方法で、どのような観点で見ていくのかを考えている。
2	2	進んで追求テーマを見つけている。	地域の変容に気づき、理由を考えようとしている。	資料を比較して、違いをとらえている。		具体的な事例から、わかることを見つけ出し、何が問題なのか、なぜそうなったのか、課題を見つけ出そうとしている。
3	3 4 5	多くの情報を探し出そうとしている。	現状をとらえ、様々な要因から判断している。	適切な資料を収集し、わかりやすくまとめている。		設定した課題について、調べたり、まとめたりすることから、地方の変容や人々の選択について考えている。
4	6 ⑦	学習を振り返り、共有化しようとしている。	他者の考えも受け入れ、選択の理由を考えている。	自分のまとめたことをわかりやすく説明している。	地域の発展には、歴史的な背景が関わっていることを理解している。	友だちのまとめや説明を聞くことで、その時の歴史的背景や人々の選択が現在の姿を表していることを多面的に考えようとしている。

## 5 本時の学習

(1)ねらい 今までの学習を通して発表された「高度経済成長期の決断」を追求テーマに沿って自分なりにまとめることができる。

### (2)展 開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価
<p>1. 前時までの学習ををふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取り上げた地域はどこであったか (石見銀山・瀬戸内工業地域・四万十川)</li> <li>・追求テーマはどんなことだったか</li> <li>・前はどんな発表があったか</li> </ul> <p>2. 本時の学習を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">3つの「高度経済成長期の決断からの変容」を追求テーマに沿ってまとめよう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「高度経済成長期にどんな決断がなされ、どのように変容したのか」についての発表を聞いて、自分の考えをまとめ、深めよう。</li> </ul> <p>3. 追求テーマについてグループで調べてきたことを、テーマごとに発表する。</p> <p>&lt;予想されるテーマ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○石見銀山は、なぜ世界遺産になったのか</li> <li>○四万十川は、どうして清流のままなのか</li> <li>○なぜ大コンビナートができたのか など</li> </ul> <p>4. 発表から、気づいたことや疑問に思ったことなどを出し合う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin: 5px 0;">発表からわかることは、どんなことか</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和32年に大森町文化財保存会が、住民の人たちによって結成された。</li> <li>・昭和30年代までは、塩田だった。</li> <li>・ダム建設など計画はなかったのだろうか。</li> </ul> <p>5. 3地域の「高度経済成長期の決断」について、自分の考えが深まったことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初から歴史的遺産が保存されていたわけではなかった。地元の人たちの保存しようという運動から現在があるのではないか。</li> <li>・塩田が衰退した理由を考えることができた。この決断は、立地条件も関わっているのではないか。</li> <li>・変わらないという決断があったから今の四万十川の清流がある。自然に残っているわけではない。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin: 5px 0;">「3地域で調べた過程で共通したことは何だったのか」「決断の要因は何か」「現状をどう考えるか」についても自分の考えをまとめよう。</div>	<p>・資料を提示しながら、今までの学習の流れがわかるように追求してきたテーマを確認する。</p> <p>・写真資料により、変容を再確認し、テーマの視点(大テーマ)を絞っておく。</p> <p>・本時の学習が意識できるように、学習の流れに位置づけて黒板に掲示する。</p> <p>・発表者は、調査をまとめた資料を使い、制限時間内に発表できるように助言する。</p> <p>・発表を聞く側は、気づいたこと、疑問に思ったことなどを発表ごとにメモを取るように伝える。</p> <p>・発言の内容を、出てきたものから順に黒板に掲示していき、どのテーマと関連があるのか確認した後で、分類しながら掲示し直す。</p> <p>・掲示し直されたものから、それぞれの地域との関連をつかむことができるようにノートに整理することを確認する。</p> <p>・3つの地域についてそれぞれ自分の考えを整理できるように、まとめ方を指示する。</p> <p>・考えが深まったこととして、どのようなことが取り上げられたか、お互いに発表し合うことを伝えておく。</p> <p>・「3地域を調べた過程で共通したことは何だったのか」「決断の要因は何か」「現状をどう考えるか」といった視点からの問いかけをすることにより、総合的にまとめられた発言を促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>— 評価の観点(思考力・判断力・表現力) —</p> <p>これまでの学習を生かし、多面的に考えている。</p> <p>【評価方法 発表, ワークシート】</p> </div>